

経営比較分析表（平成28年度決算）

山口県 周南市

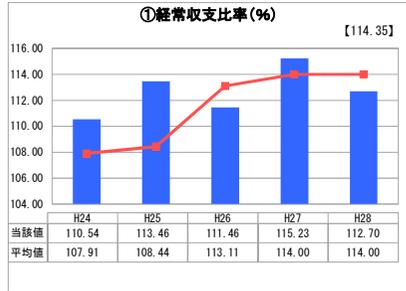
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	54.79	88.29	2,840	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
146,475	656.29	223.19
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
128,761	84.31	1,527.23

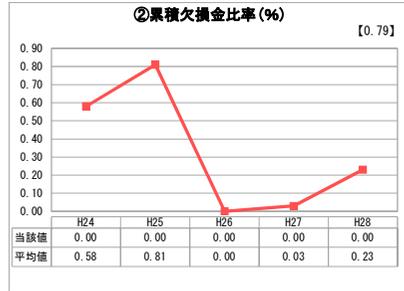
グラフ凡例

- 当該団体の値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

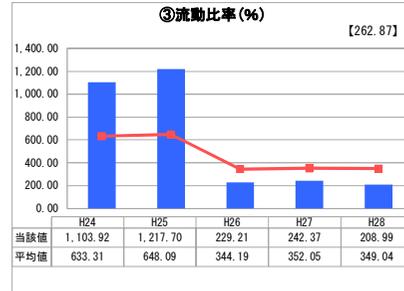
1. 経営の健全性・効率性



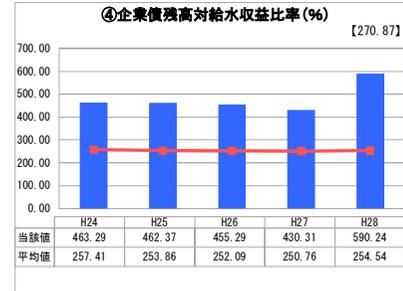
「経常損益」



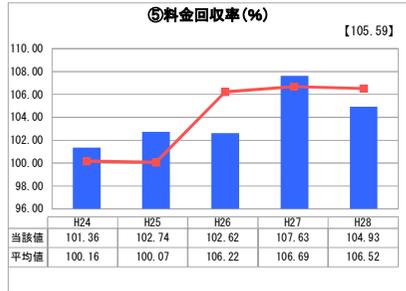
「累積欠損」



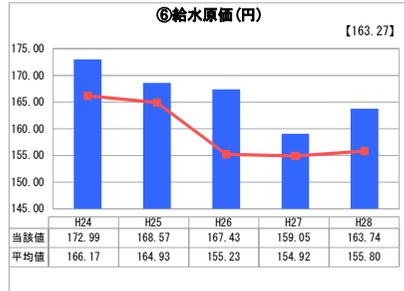
「支払能力」



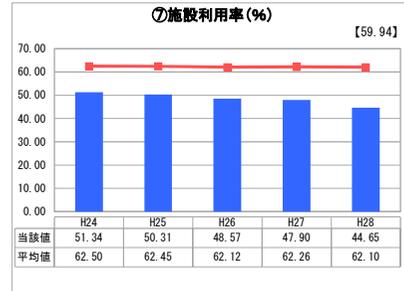
「債務残高」



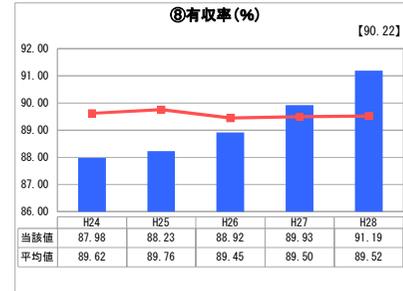
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

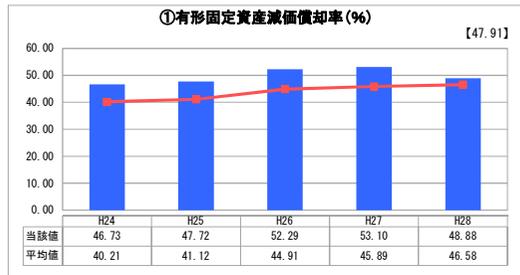


「施設の効率性」

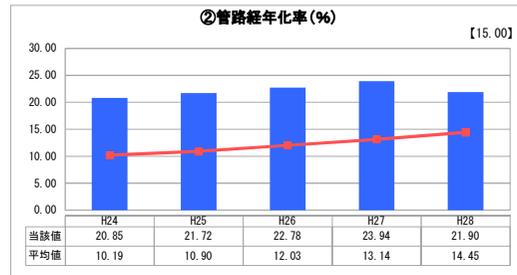


「供給した配水量の効率性」

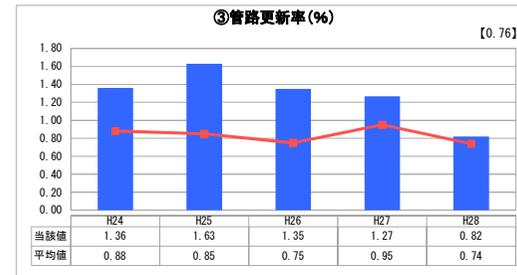
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
類似団体平均値を下回っているが、100%を上回っており経営状況は健全な水準にある。

② 流動比率
100%を上回っており健全な経営状態である。類似団体平均値と比較すると下回っているが、200%を越えているため、支払能力に問題はない。

④ 企業債残高対給水収益比率
類似団体平均値と比較すると大幅に高い。本市水道事業は合併等により複数の浄水場及び水源を有しており、さらに平成28年度末の熊本地区水道事業統合に伴い、企業債残高が大幅に増加した。

⑤ 料金回収率
類似団体平均値を下回っているが、100%を上回っており、経営に必要な経費を料金で賄われている。

⑥ 給水原価
類似団体平均値と比較すると高い。本市水道事業は、合併や熊本地区水道事業統合等により複数の浄水場と水源を有し、維持管理費用等がかかるため給水原価が高くなっている。

⑦ 施設利用率
類似団体平均値と比較すると低い。本市水道事業は、配水量が平成4年度をピークに大幅に減少し続けており、施設利用率が低くなっている。

⑧ 有収率
類似団体平均値と比較すると若干高い。漏水調査や漏水回数が多い管路の布設替などの対策により、有収率が増加した。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
類似団体平均値と比較すると高い。本市水道事業は、創設が早く、施設が古いため、有形固定資産減価償却率が高い傾向にある。

② 管路経年化率
類似団体平均値と比較すると高い。本市水道事業は、創設が早く、老朽管が多いため、管路経年化率が高い傾向にある。

③ 管路更新率
類似団体平均値と比較すると高い。本市水道事業は、管路経年化率が高いため、耐震化を含め、老朽管更新工事を進めている。

全体総括

現状における経営状況は、比較的良好である。ただし、類似団体平均値と比較すると次の3点において課題があるため、対策を進めている。

① 企業債残高の削減
平成22年度末残高133億円から平成27年度末残高106億円と着実に企業債の削減を図ってきたが、熊本地区水道事業統合に伴い、平成28年度末残高147億円となったため、今後も計画的に企業債の削減を図っていく。

② 施設利用率の向上
合併により、4か所の主要な浄水場を有しているが、平成30年度に1か所を統合し、3か所の浄水場とする見込みである。

③ 老朽化対策
耐震化事業を大幅に進めているが、管路経年化率の上昇に合っていないため、費用対効果等を勘案し、重要箇所の更新を中心に進めている。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。